

「みんななかよし」 1年生（望ましい人間関係の育成）

1. 題材について

1年生も後半に入ると、学校生活にもだいぶ慣れ、友だちとも親しくなってきた反面、自己主張も強くなってきている。そのため、けんかや言い争いもふえてきた。そこで、けんかや言い争いが起きた時には、どのようにして解決をしたらよいかみんなで考え、楽しい学校生活をおくることができるようにする。

2. 活動の実際

(1) 事前の活動

朝の時間に「友だちとのことでいやなこと・困っていること」「よかったこと・うれしいこと」があれば、紙に書くよう伝える。

全員がそれぞれ一人の友だちに着目し、よいところを見つけ、手紙にかいておくようにする。(Xさんからの手紙)

(2) 本時の活動

ねらい

相手の気持ちを考え、だれとでも仲良く学校生活をおくろうとする。

展開

	児童の活動	評価()と支援()	資料
導入	1. 「いやなこと・困ること」をされている場面を見て、主人公の気持ちを発表する。	主人公の気持ちを発表しようとしている。 (活動への関心・意欲・態度) 学級の中で起きる場面をペープサートによる役割演技で表す。	クラスの実態を顔で表したグラフ 他
展開	2. 「いやなこと・困ること」をしている人の気持ちを考える。 3. 主人公は、どんな風にいやな気持ちを伝えればよいか考える。 4. 「よいこと・うれしいこと」をしてもらっている場面を見て、主人公の気持ちやうれしいことをした人の気持ちを考える。	だれとでも仲良くするために相手の気持ちを考えている。(集団の一員としての思考・判断) 個人攻撃にならないようにする。 相手の気持ちを考え、悪気のないことや、いやがられていることに気づいていないことなどに気づくよう声かけをする。 相手の気持ちを考えて言うことが大切なことをおさえる。	
終末	5. 「Xさんからの手紙」を交換し合い、感想を言う。	友だちから喜ばれることをしようとする気持ちをもっている。 (自主的・実践的な活動・態度) 手紙をもらった感想を交流し、友だちに喜ばれることをしようとする気持ちが高まるようにする。	

(3) 事後の活動

一人一人の個人用掲示ファイルに、「Xさんからの手紙」を入れて掲示し、継続して取り組むようにする。